

塩分濃度高い地下水活用し養殖

河内のトラフグ 新名物に

河内町の廃校で地下水を利用し高級魚として知られるトラフグの養殖が行われている。もともと町の地下水は塩分濃度が高く飲用には適さなかったが、これを逆手に取った格好だ。昨年秋季に本格的な出荷が始まったが、新型コロナウイルス蔓延の影響で出荷がほぼ止まった。それでも町立学校の給食に提供され、ふるさと納税の返礼品にも予定されるなど、町では新たな名物の誕生を目指している。

(篠崎理、写真も)

トラフグを養殖しているのは、町も統廃合で使われなくなっは、同町内に拠点を置くトキタ。時田武取締役は「地域活性化と塩分を含んでいる地下水を何かに利用できないかと考えたのがきっかけ」と話す。

栃木県など、内陸で養殖している事例を視察する一方、町内や龍ヶ崎市のほか、県外



トラフグの生育状況を確認する時田武取締役—河内町長竿

町も統廃合で使われなくなっは、同町内に拠点を置くトキタ。時田武取締役は「地域活性化と塩分を含んでいる地下水を何かに利用できないかと考えたのがきっかけ」と話す。



町内で養殖したトラフグのから揚げを味わう子供たち—河内町長竿のかわち学園

では京都市などの料理店にも初出荷し養殖事業は順風満帆に見えた。

ところが、新型コロナウイルスの感染拡大により関東や関西の都府県に2度目の緊急事態宣言が発令された。茨城でも県独自の緊急事態宣言が出され、飲食店の時短や営業自粛などで、トラフグの出荷はほぼ止

コロナ禍なんの 給食、ふるさと納税にも

まっています。こうした中、河内町は今日8日、トラフグの消費拡大につなげようと、義務教育学校、町立かわち学園の給食でトラフグのから揚げを提供した。

ほとんどの子供たちはトラフグを食べるのは初めて。「今日から揚げは河内町で育てられたトラフグです。身の真ん中に骨が入っているので気をつけて食べましょう」との放送が流れると、子供たちは興味深そうにトラフグを味わっていた。

初めてトラフグを食べたという根本達朗さん(10)は「皮はカリッとして中は柔らかく、また食べたい」と話していた。

時田武取締役は「食べられるまでに成長するには約1年かかるが、海での養殖より倍の早さで成長する。一年中季節に関係なく出荷できるのが最大のメリット」と話す。

河内町の雑賀正光町長は「河内町でもこれだけの量を育ててほしい。ふるさと納税の返礼品にも加えて新しい河内町の名物にしたい」と期待している。

「東各市2人」筑西、かすみ 「東北六県味めぐり」で販



給食に提供されたトラフグの唐揚げを味わう
児童たち—河内町長竿の町立かわち学園で

町内廃校で養殖 トラフグ給食に

かわち学園

河内町長竿の小中一
貫義務教育学校・町立
かわち学園（橋爪智校
長）で8日、町内の廃

石田勇さん88歳

14日正午、JA祭典なめ
がた中央ホール。芹沢。

長男優さん

辺田通さん96歳

14日正午、JA祭典なめ

ル水海道。三坂新田町。

夫正博さん

■境

柿沼義一さん80歳

近親者で行う。百戸。長
男勝美さん

校で養殖されているト
ラフグが給食に提供さ
れた。

町などによると、新

型コロナウイルスの感

染拡大で影響を受けた

水産物生産者を支援す

る、県の「県産水産物

学校給食緊急対策事

業」の一環。建設会社
「キタ」（本社・下

妻市）が、町内で養殖
しているトラフグの切
り身約1000キを配
達。学校で唐揚げに調
理された。
4年生の前田奈槻さ
んは「フグは初めて。
どんな味か知らなかつ
たけれど、柔らかくて
おいしかった」と話し
た。【庭木茂視】

トラフグ給食、初めてのおいしさ 河内



●トラフグの唐揚げを味わう子どもたち
●旧小学校の敷地で、地下海水を利用して養殖されているトラフグ。いずれも河内町長竿

「フグの王様」と呼ばれるトラフグが、河内町の旧小学校の敷地で養殖されている。町の義務教育学校「かわち学園」の学校給食で8日、唐揚げとしてお目見えし、子どもたちが味わった。町はブランド化事業で養殖業者への補助金交付を決め、特産品として後押ししていく考えだ。

給食は、コロナ禍で影響を受けている水産業者を支援する県の事業の一環。町内の事業所でトラフグを養殖している「トキタ」（本社・下妻市）が、重さ1キロ、体長約30センチの100匹を、食べやすいように切り身に加工して提供した。

この日は、約420人が唐揚げにしたトラフグを食べた。4年1組では、担任の椿千佳先生が「大きな骨が入っているから注意して」と呼びかけ、子どもたちが独特のコクや甘みを感じながら、ほおぼった。厚田香織さん(10)は「初めて食べた。いつもの唐揚げより柔らかくておいしかった」と笑顔で話した。

トキタは2012年に閉校した旧町立長竿小学校を16年、町から無償で借り、校舎の外に養殖施設を新設。容量10トの水槽や独自の循環システムで地下海水を利用し、18年12月から100匹で試験養殖を始めた。

同社によると、海上養殖と比べ倍の早さの1年で5センチの稚魚が1キロに成長するといい、現在約6千匹を育てている。20年11月から、京都の料亭や河内町、取手市、牛久市などの飲食店に出荷を始めたが、コロナの影響で中止に。取締役の時田武さん(57)は「苦しい時期に県の支援で、子どもたちに味わってもらえる機会ができてうれしい」。

町は20年度から始めたブランド化支援事業で、300万円の補助金交付を決めた。雑賀正光町長も「町の新しい名物としてPRしていきたい」と期待する。

(佐藤清孝)

給食に河内産トラフグ



小中一貫の義務教育学校
・河内町立かわち学園で8
日、給食に町内で養殖され
ているトラフグが出された
写真Ⅱ。地元の養殖会社
「トキタ」が旧長竿小の跡

地を利用して育てた計10
0匹で、約420人の児童
・生徒が唐揚げにしたトラ
フグを味わった。4年2組
の田沼勇人君(10)は「少し
歯ごたえがあって、おいし

かった。また食べてみたい」と話していた。

同社は2018年12月、
塩分を含んだ地下水を利用
してトラフグの養殖を始め
た。現在は複数の10ト水槽
で約6000匹を養殖して
いる。同社取締役の時田武
さん(57)は「成長が早く、
年間を通じて出荷できる。
地元の子どもたちに食べて
もらえてうれしい」と語る。
町は、トラフグをふるさと
と納税の返礼品にすること
も検討している。給食の試
食に訪れた雑賀正光町長は
「町の新しい名物にしたい」と
期待を寄せていた。

長谷川検事正着任
「安心安全に全力」

水戸地検

水戸地検の長谷川保検事

給食に河内産トラフグ



初めて給食に出されたトラフグの唐揚げ。河内町長平の町立かわち学園で唐揚げとなった長平小の敷地内で育てられているトラフグ。河内町長平

「初めて」「ほぐよい甘み」

河内町長平の義務教育学校（小中一貫校）、町立かわち学園で8日、地元産トラフグを使った給食が初めて登場し、唐揚げとして提供された。町内の廃校を活用して魚の養殖を営む「トナタ」が100匹分を提供。子どもたちは「初めて食べ

分を含む地下水を養殖に役立てているという。トラフグは切り身の状態で提供し、校内で唐揚げに調理された。ご飯やみそ汁、こまめと一緒に出場。4年の諸岡良美さん（10）は「サクサクとしていて、ほぐよい甘みもある。残さず食べられた」と笑顔だった。

た。同社は、旧長平小にプラントを設け、2019年からトラフグ養殖を本格的に始めた。現在は複数の10ナ水槽で計6千匹を育て、飲食店などに卸している。塩

今回の給食は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた業者に向けた県の支援策の一環。時田武取総役（77）は「天然物と変わらないとの評価も受けている。地元の子も大切に食べてもらえてうれしい」と話した。

付金を詐取 容疑の組員逮捕

付金制度を巡る県内での逮捕者は初めて。

逮捕容疑は昨年4月27日から同9月18日までの間、不支給要件に当たる「暴力団員ではありません」との欄にチェックした上、署名

同署によると、市社協が同9月18日以降、東容疑者が暴力団組員であることに気づき、興奮に被害届を提出した。東容疑者は「自分は組員ではない」などと容疑を否認している。

同制度は市社協や市を通じて申請し、県社協が貸し付けを決め、送金する仕組み。本来は低所得者向けのが、新型コロナウイルスの影響で休業や失業などが拡大したため、一時的に困った世帯にも生活資金を貸し付ける特例措置が設けられた。

押印した申請書類を計3回、日立市社会福祉協議会や日立市に提出し、自身名義の口座に現金計110万円を振り込ませ、だまし取

つた疑い。

た。（鈴木剛史）